



目次

巻頭言	1
愛知県退職校長会研修会報告	1
東海北陸地区協議会	
岐阜大会報告	1
地区退職校長会だより	2
生き生きライフ	2・3・4
会員交流広場	4
事務局だより	4

題字 澤井恒樹(元 豊川・御津南部小)
28年度入会
タイトル 澤田祥明(元 岡崎・六ツ美北部小)
デザイン 29年度入会

ただの爺では
終わらない心意気

副会長

寺崎 敏博

「ただの爺さんではないのですね」地域の代表として参加した母校の学校支援委員会で、長い付き合いの家庭医から寄せられた言葉である。豊かな経験に基づく見識を感じたとの指摘に素直に感謝した。人生で大切なことは、何かを得ることではなくて、得たものを大切にしていくことであると信じている私は、この会報に掲載されている皆さんの退職後の生き様に大きな刺激を受けている。その会報が郵便料金値上げによる経費の高騰で発行の危機に陥っている。そこで、会報を年一回の郵送にする代替措置としてホームページを開設して掲載することとしている。会員の皆さんに紙面として届く回数には限られるが、いつでも手元のスマホ等から閲覧できる利点がある。

また、様々な運や縁があって校長職を全うした者の集まりである県退職校長会が、定年引上げ・役職定年制という制度変更直面して、その在り方を検討する必要に迫られている。

そこで、永続可能な組織のあり方を求めて岡田会長のもとで様々な改革案が検討されている。第一に「七年会員制」である。本県は、六十歳の役職定年時に入会して、七年分の会費を納入するという独自の方法で組織を維持している。しかし、定年引上げにより実質的な会員期間が僅かしかないこと。また、他県では定年延長された最終年に加入の意思を確認するため未加入者が増加していることから、現在の加入方法を維持しながらの会員年数の延長が、今後の課題となっている。

第二に会員の定年退職後の働き方や生活の現状を調査するアンケートの実施である。定年退職年度に調査を積み重ねることで退職後の生活を考える糧にできるであろう。

ただの爺と評された私は、地域の代表の役を引き受けた。校長として学校が地域に支えられたことのお礼に、自分の母校や故郷に恩返しをしたいと願うことである。

私たち校長経験者は豊かな知識と経験を有している優れた教育者であり、組織の管理者でもある。退職校長会の絆を通して、会員が地域社会や現職の校長先生方、さらには子どもたちに貢献できる機会を見付け、社会貢献の道に一步でも踏み出されんことを私は切に願っている。



八月二日、愛知県小中学校長会会長・都築孝明様を講師にお招きし、研修会を開催しました。

岡田豊会長の挨拶・講師紹介の後、都築様より、「教育の今日的課題について」と題して、ご講演いただきました。

国の動向を見据え、愛知の教育課題として、将来構想の方向性や「休み方改革」

愛知県退職校長会

研修会報告

「働き方改革」の進捗についてお話いただきました。さらに、県校長会の課題として、Back to schoolの意義を再確認するとともに、教職員構成の変化への対応についてお示しくださいました。

質疑応答の中で、課題解決のため、校長会が懸命に取り組んでおられる様子が退職校長会の参加者にもよく伝わりました。

最後に関口大介副会長の「お礼の言葉」で研修会を閉会しました。

昨年度の石川大会は、コロナ禍以前の通常開催に戻し、一泊二日の日程で開催されたが、経費削減の流れを受けて、岐阜大会は、十一月六日、岐阜市にて一日日程で開催された。本県からは岡田豊会長、寺崎敏博副会長と共に参加した。

「定年延長を踏まえた新入会員確保のための現状と取組」「本年度力を入れていく取組」「全連退への要望」などの協議について、東海北陸各七県の成果と課題の報告があり、活発に情報交換がなされた。本県からは「原則六十歳の翌年度の入会とする会則改正」「定年延長に伴う課題等を把握するための新規入会者を対象とした実態調査の実施」「HPの開設」「女性の副会長登用」など、今日的課題に対する精力的な取組と方向性について発表した。各県共に組織強化、会員相互の絆づくりに尽力されていた。一層魅力ある退職校長会を目指し、組織活性化の必要性が確認された。

全国連合退職校長会
東海北陸地区協議会
岐阜大会報告

副会長 松村 光洋

地区退職校長会だより

県内の地区退職校長会から、たよりをいただきました。互いの理解と親睦を深めるため、順次紹介しています。

小牧市
退職校長会

29年度入会 横井 公治
(元 小牧・光ヶ丘小)

本会は小牧市校長OB会と称し、小牧市立小中学校長及び小牧市在住の小中高等学校長を退いた方で組織され、会員数は百二十八名となっています。

主な活動としては、五月最終土曜日に開催する総会・懇親会、昭和五十四年に設立された本会が十年を迎えた際に当時の会長の提案による五年毎の追用法要、弔事に際しての弔問等を行っています。

令和二年度から三年間、コロナ禍のため、総会・懇親会は中止せざるを得ず書面での対応でしたが、昨年度より再び一堂に会した総会・懇親会、追用法要を実施することができました。

今年度も五月二十五日(土)に行い、総会前の集合写真は好評でした。総会には、市長、教育長、現職の市校長会役員を来賓としてお招きし、それぞれの立場から教育に関するお話をいただき、教育現場の現状を知る有意義な

会でした。

総会後の懇親会では、久しぶりの再会に喜び、懐かしい先輩との会話が弾み、現役当時の苦労も笑い話になるなど終始和やかな雰囲気でした。参加者皆が満面の笑みを浮かべた表情にうれしくなったのは、わたしだけでなかったと思っています。

来年度以降も総会・懇親会が年一回、確実に開催され、先輩後輩と多くの方にお会いできることを楽しみにしたいと思います。

愛知郡・日進市・

長久手市 退職校長会

4年度入会 鶴飼 洋一
(元 長久手・長久手中)

本地区の退職校長会は、長久手市、日進市、東郷町の退職者と校長会長で組織し、現在の会員数は百十六名となっています。

今年度は十一月十六日に三十二名が参加して定例の総会・懇親会を開催しました。久しぶりにお会いする諸先輩と顔を合わせ、懐かしい昔話に花を咲かせるとともに、先輩方の年月を経てもなお深淵とされている生き方に心を動かされました。探求

心溢れる研究活動に日々没頭されている方、自らの心身と向き合い衰えぬ向上心を持つて健康づくりに精進してみえる方、社会とのつながりを大切にしつつ「恩返し」を旨とし様々な社会貢献活動をされている方等、退職後の人生をそれぞれの道で輝かせている諸先輩方の姿は、私にとってまさに「人生の羅針盤」であることを強く感じました。年齢の差こそあれ、同じ立場で時に苦悩し、時に達成感を味わいながら退職を迎えた仲間として、今後も挨拶代わりの「変わらないねえ。」からの会話が弾み、様々な生き方や考え方に触れ合う機会である本会を大切にしていきたいと思っています。



愛知郡・日進市・長久手市 退職校長会総会時の記念写真

生き生き

ライフ

俳句三昧

元年度入会 浅井 厚視
(元 津島・南小)

退職を機に俳句を始めました。頭の体操ということもありますが、高校生の時からいつか俳句を作りたいと思っていました。以下は新聞の俳句欄に載せていただいた作品です。多作多捨が原則です。

『明日よりの』

採用通知七日粥

初めて投句した句です。採用試験の結果が届いた先生の気持ちを含みました。七日粥は万病を防ぐ吉報のご飯です。『朝よりの会議を終えし』

おでん鍋

一日に渡る長い会議。あまり会議の成果はあがっていません。優しいおでん鍋が疲れた体を癒してくれました。

毎朝、出勤前に散歩をしています。思いついた俳句を携帯にメモしています。お陰で四季や身の回りの小さな変化に気づくようになりました。

『銭湯の赤き暖簾や』

法師蟬

街中に残っている銭湯の赤暖簾が揺れていました。風呂

から出たら、法師蟬が鳴いていました。厳しい残暑です。『小満や咳止めを飲む』

旅の朝

北海道への出張の朝、咳が止まらず、薬を飲みました。同行の先輩がその後亡くなり、忘れられない旅行となりました。俳句を始めてから、退屈な時間が確実に減りました。

わくわく史跡発掘

2年度入会 大林 伸吉
(元 豊橋・北部中)

再任用職を退職した年、在住する市の広報で史跡発掘の作業員の募集を知り、興味本位だけで応募しました。

八月早々、国分寺跡の現場へ出向くと、まず指示されたのは、表土を順に掘り下げる作業でした。仲間は同年代や年上。炎天下でこの土木作業は、六十歳過ぎには正直きついなと思いつながら、休憩時間の駄々話を楽しみに作業を続けました。

やがて、土の中から瓦や陶器の破片が出てくると、気持ちにはわかに高まります。市の調査員から発掘作業の主な目的は、どんな遺構の痕跡があるかを明らかにすることと教えられ、掘った土の中に赤っぽい地山(ぢやま)の層を見つけ、その表面を水平



発掘現場の様子

に削り出して、建物の柱穴などの痕跡を探す作業が続きました。

それでも、稀に遺構の溝の中に陶器や軒瓦等のほぼ完品が見つかり、竹べらなどで掘り出す作業も必要になりました。自分が担当でなくても、わくわくする気持ちは皆一緒に、作業状況を何度も覗きにきました。

発掘作業に関わったことで、歴史を再発見するロマンに触れ、汗を流す爽快感を再確認できた二年間でした。

元気をくれる

高校生たち

3年度入会 原田 雅裕
(元 名古屋・御幸山中)

ご縁をいただき、私は現在、長久手市にある愛知享栄学園栄徳高等学校に勤務し、入試広報部に所属しています。この仕事に就く以前と現在

とは、私立高校の渉外という仕事に対する私のイメージはすっかり変わりました。

その大きな理由は、同じ部署に勤務する諸先輩方の「栄徳愛」溢れる働きぶりです。

毎朝八時前から正門に立ち、登校してくる高校生たちを迎えます。そして、正門前を通る芸大生や県職員の方々とも朝の挨拶をかわします。勿論、勤務時間前ですから、これは業務という訳ではありません。

栄徳高校は挨拶をととても大切にしていますので、高校生たちは、本当に気持ちの良い挨拶を返してくれます。

登校時のほんの短い時間ですが、部活のことや受験のことなど、ささやかな会話を楽しみに、あるいはその日一日のスイッチを入れるためなのか、毎朝立ち止まっていく生徒もいます。

中学校では不登校だった生徒が「僕、がんばってますよ」と目で訴えながら、毎朝にっこりと笑顔を向けてくれます。

また、人懐っこい生徒は男女を問わず、手を振って自分の存在をアピールしてきます。とても可愛らしいです。

幸せの秘訣の一つは「自分が身を置く場を好きになること」とだと改めて思う毎日です。

全国の仲間と

4年度入会 加藤まゆみ
(元 稲沢・大里西小)

今年は熊本城で再会。毎年十一月はじめに集まる仲間がいます。二十年ほど前に、筑波の文科省研修で出会った全国の仲間です。研修の頃は、

学校でいろいろな立場をもちたり、学級の子どもたちへの指導を工夫したりしている頃でした。一緒に研修に励

んだ仲間とその後連絡を取りあい、時には集まって、東日本大震災の時の話を聞いた

り、管理職としての苦勞を励ましあったりしてきました。

愛知で集まった時は、学校運営協議会の話題でした。

今は退職し、私と同じよう

に不登校の子どもたちと過ごしている人もいれば、校長職を続けている人、特別支援教

育に携わっている人もいます。また、地域の役員や畑仕事など、新しい世界で頑張る人もいます。現職の時よりも

時間に余裕ができ、毎年集ま



復興途中の熊本城

るようになりました。持ち回りの幹事で、昨年は横浜で中華を、今年は熊本で馬刺しを、と宴会も盛り上がりま

す。子どもたちのために何が

できるかを話したり、農業の

奥深さを聞いたり、相変わら

ずみんな熱くなります。

さあ、来年は兵庫。

「こころの教室」

5年度入会 伊勢村和生
(元 名古屋・日比野中)

在職中に心理士の資格を取り退職後スクールカウンセラーとして第二の人生を歩み始めました。

「こころの教室」が私の第二の仕事場です。朝登校しても教室に入れない子、授業中にストレスが溜まってしまい泣き

出している子、昼休みにふらつとやってくる子、子育てに悩むお母さん、不登校、希死念慮等

それぞれの悩みに向き合い、解決策を一緒に考えていきます。

「こころの教室」から離れて活動もします。野外活動、合唱コンクール、体育大会等は今

で校長として見ていたものとは違った景色があります。集団が怖いと感じる子どもに寄り添って、その子の目線で体育

大会の競技を観戦しました。合唱コンクールでは舞台上に上



こころの教室

ことにした生徒の決断を褒めました。

今まで教師として多くの生徒や様々なケースに触れてきました。中学生の抱える問題について幅広い視野をもっているつもりでした。しかし、子どもの育ちをみながら、自己理解を促し、自己解決力を身に付けるには、私の悩みは尽きません。

教師として培った集団での成長や社会性の育成とは違った視点をもつことの大切さを実感する毎日です。

カウンセラーと教師とは違うと言われます。しかし、私のDNAは断然教師です。両者の良さを生かして、「こころの教室」で毎日子どもと向き合っています。

最終受益者は子どもたち



(公財)日教弘愛知支部
(株)愛知教弘

親孝行

6年度入会 佐野 吉則
(元 刈谷・朝日中)

「おはよう。今日は、何を
するの」

朝の両親との会話です。

この四月より、家業のお手伝い(見習い?)を始めました。今年の夏は酷暑で、日々命がけの畑仕事です。朝早くから畑に出かけていく両親を、長い間見て、子供ながらに大変だなあと感じていました。この歳になり、その意味がやっと理解できました。

我が家は、刈谷市北部の名産『小玉すいか』を生産しています。とても手間のかかる品種で、収穫にも丁寧さが求められ、私の性格には合わない品種です。この作業に文句一つ言わずに、毎日毎日取り組む両親には、頭が下がります。両親も高齢になり、力仕事は危なく感じられる状況に、いよいよ俺の出番だなあと偉そうに考えていました。しかし、日々一緒に働いてみて、全身から汗が噴き出すような状況でも、最後まで手を抜かず仕事に取り組む両親にはかないません。現在でも、できることを教えてもらいながら、真似をして働いている状況です。

会員交流広場



薔薇の魅力に惹かれて

5年度入会 黒川 利之
(元 海部・十四山中)

退職後は、庭の草花・樹木を世話する時間が増えました。今年は薔薇の新苗を新たに二本加え、庭の雰囲気も少し



明るくなってきました。

薔薇は、ちよつと目を離すと、一気に病害虫にやられてしまうので、苦勞しますが、目をかけ、手をかけ、香り高い花をたくさん咲かせられればと思っています。

行雲流水

3年度入会 前田 真弓
(元 名古屋・比良小)

退職後は時間の使い方に少し戸惑っていました。天気の良い日に空を見上げ、背伸び



をする気持ちよさを実感しました。何かと決めず、柔軟に生活したいと思っています。

青空に泳ぐ

4年度入会 田澤 順子
(元 豊橋・旭小)

退職後に始めた水彩画。ゆっくり、ゆったり描くことの楽しさを味わっています。



事務局だより

「見習い?」この言葉がびつたりですが、毎日新たな発見があることは新鮮であり、楽しみでもあります。十月には、大型特殊免許も取得しました。これからも、両親に助けてもらいながら、親孝行になればと笑顔で働きたいと思っています。

「ご多用の中を、原稿の執筆にご協力いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

今回、退職校長会会報とと

もに、令和六年度入会者に、定年引上げ・役職定年制に関するアンケートの依頼をしました。その結果は、次号でお知らせします。このアンケートは、当面の間、入会後、一年経過された方を対象に実施していきます。

最後に、諸物価高騰の折、

経費削減のため、ご自宅への会報送付を年に一回(二月上旬に二冊)にさせていただきます。七月に送付していた偶数号は新しく開設するホームページ(令和七年四月一日運用開始)でご確認ください。

訃報 ()内はご逝去の日

藪崎 昭彦先生(六・八・二)
元豊田市立旭中学校長

令和六年一月一日から、令和六年十二月三十一日までにご逝去され、事務局にご連絡をいただいた、七年会員の方を掲載しました。

愛知県退職校長会事務局

名古屋市中区新栄一丁目

四九番一〇号

愛知県教育会館六階

愛知県小中学校長会事務局内

TEL 〇五二二六一一八八五二

FAX 〇五二二六一一八八〇七

E-mail ai-kocho@axel.ocn.ne.jp

愛知県退職校長会ホームページ

<https://ai-taisoku.sakura.ne.jp/>

パスワード taisoku2025

